

平成 26 年度の山部会の活動方針

■テーマ① 山村再生担い手づくり

目標・運営方針から見る活動内容

目標：WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

山部会では、山のことを知ってもらうため、山村再生担い手づくり事例集の作成を、流域圏（特に市民が中心）で一体的に行っていることを提案する。また、ここで実施するヒアリングを通じた交流のしくみを川部会や海部会にも提案したい。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

○NPO 法人福寿の里自然倶楽部へのヒアリングでは、流域圏の交流に向けた前向きな提案があったので、福寿の里で山部会WGを開催したらどうか。

○とよた都市農山村交流ネットワークへのヒアリングでは、豊田と岡崎の熱い交流ができたことがよかったと取材者が喜んでいました。

○取材を通じて生まれた新しい交流が次の取組につながるようになる。

◆来年度も継続して事例集の取材を行うことを考えたいが、事務局の考えとの調整が必要。

※◆は地域部会での意見

平成 26 年度の活動方針

- 事例集については、引き続き作成していくものとする。
- 作成にあたっては、川や海のメンバーに声がけを行い、矢作川流域全体の取組みとして広げていくものとする。
- 今年度、作成にあたっての方法論を確立できたので、方法論についてのPRも合わせて行っていく。

■テーマ② 山村ミーティング

運営方針から見る活動内容

目標：山村再生担い手づくり事例集に登場する、流域圏の人と山村の課題に取り組んでいる若者が互いに交流することで、それぞれの取り組みを進化させると同時に、発信し広めていくためのアイデアを生み出していく。

運営方針：平成 25 年度は地域の既存の活動の様子を見ることとし、流域圏懇談会としてミーティングを主催することは見送った。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

- ミーティングは、それぞれの森林組合が抱える悩みを全員で話し合うことを目的として行い、搬出時の課題や悩みを雑談形式でやることを考えている、人が集まるかが心配。
- 森林組は、人の問題というより森の問題に関係が深いので、ミーティングについては森林組合にこだわる必要はないのではないかと考えている。
- ◆山村ミーティングはぜひ来年度やっていければよい。山の担い手以外にも農業に従事する若者なども含めて、山村にいる若い方が計画・企画した活動を流域圏で展開できるとよい。
- ◆山村ミーティングについては、すでにある団体のうち、実際に山村で動いている団体が多くある。彼らの活動の成果を流域圏全体としてリンクさせることがよいと思っている。

※◆は地域部会での意見

平成 26 年度の活動方針

- 旭、根羽、恵那の 3 地区で木の駅プロジェクト実行委員会が行われており、この活動を山村ミーティングとして位置づけ、連携、協働していく。

■テーマ③ 森づくりガイドライン

目標・運営方針から見る活動内容

目標：WGの中で森づくりガイドラインの策定、モデル林の設定とそこでのモニタリングの試行的実施を行う。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

- ガイドラインはカタログを作るイメージ。社会的にも全体像をだれもみたことがないので作る意義がある。
- データのアップデートのタイミングを考慮してとりまとめていけるとよい。
- ガイドラインとしてどこまでまとめることが可能か、事務局の考えもお聞きしたい。
- ◆矢作川流域の森づくりについて、これまでの森づくりの実績や優れた事例などを含めて、川・海・都市住民の方々にも知ってもらいたい。その際は印刷費のような一定の経費がかかるなど一定の課題があることも共有しておく必要がある。
- ◆大手の企業と連携して森づくりをおこなっていく例もあるのでその可能性についても考えてはどうか。

※◆は地域部会での意見

平成26年度の活動方針

- 流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらおうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とする。
- 今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産をするモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林について、流域の4地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

■テーマ④ 木づかいガイドライン

目標・運営方針から見る活動内容

目標：WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行する。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

WG時の意見交換内容から見る活動提案

- ガイドラインは3年かけて策定することを予定。
- 参加者の思いを含めて心のあぶり出しを行うことを目的に、「ブレインストーミング方式」でアイデア出しを行った。
- ガイドラインはストーリーを重視した読物とすべき。
- 流域圏懇談会のアピールを目的とした流域圏製品を商品化していくことも面白い。
- 映像、写真、子供の頃に自分で作った作品などがあると議論が盛り上がる。
- ガイドライン作成に向けた今後のパートナーとして、林業普及指導員、モニターの市民、素人山主、工務店、建築士、木工品展、木工クラフトマン、ナイス等木材流通業者、道の駅、アウトレット商品取扱店などが考えられる。
- ◆土木工事に地域材を使う事例を知っている。東海豪雨の際に木工沈床がもちこたえたような話もあるなかで、川の工事について山部会のテーマである木づかいという面で連携するようなことも面白い。現場見学会の企画を通じて実現できるとよい。

※◆は地域部会での意見

平成26年度の活動方針

- すでにアタック表に掲載できる既存の活動や、これから実践できる活動を加えたより現実的なアタック表とするため、既に木づかい推進に取り組まれている実績のあるスタッフや、関連するスタッフを新たに探して部会に参加してもらおう。
- 新スタッフを加え、平成25年度のライフステージアタック表（案）をベースに、すでに取り組まれている「とよた森林学校」等の活動を表に落とし込んでみることにより、広範囲の木づかい推進活動をアタック表の視点から見える化してみる。
- この時点で分析を行い、どの部分が充実していて、どの部分が弱いのか把握し、アタック表を再整理してみる。
- また、ここで明らかになった先進的な取組みを数回、部会として体験してみる。
- この先進的な取組みが他地区へも比較的簡単に導入することができれば、それをアタック表に加えて見える化する。
- これにより、現時点での木づかいガイドラインの原形を作成する。
- 核となる市民活動（提案されたものも含める）ごとにプロジェクトチームを結成し、行政・業界・研究者の上手な連携の形態を提案、あるいは構築できるように検討・働きかけを行い（どの程度までできるかは検討）ながらアタック表に掲載して、皆が現実的な取組みとして行動できるように段階的に木づかいガイドラインの作成を進める。

